

学術研究Ⅱ「学術研究講演会」

9月7日(水)6・7時間目に、「これから研究発表をする仙台一高生のために」という演題で、東北大学大学院生命科学研究所・酒井聡樹准教授による講演会が行われた。今後、本格的に研究発表をする機会が増えていく中で、スライドやポスターをどのように工夫すればより聴衆に伝わりやすくなるか、を中心にお話をいただいた。終始、熱心に講演を聞き、多くの質問があがった。また1年生への指導・助言を行う際の準備をする上でも、非常に重要な講演会だった。

以下、講演内容の特に重要な点を概要にまとめた。また、講演を聞いた2年生の感想と、質疑の内容を示す。

<何のために発表するか>

課題の発見、解決、研究の成果など全ては聴衆に伝えるために発表する。聴衆は、あくまで自分の為に発表内容を理解しようとするのであり、聴衆側に理解の努力を払う義務はない。そのため、発表者が相手にわかってもらおうという意識を持ち、発表技術を向上させる事が重要である。

<見出しを活用する>

わかりやすいスライドを設計するためには、例えば、フォントやサイズ、色を変えるとといった見出しの強調が効果的である。どのような情報を伝えるかを前もって簡潔に知らせる事が重要である。また、一枚のスライドでは一つのことのみを載せるようにし、特に伝えたい事は上部に書くとわかりやすいものになる。

<図を利用する>

ポスター内の長い文章は読む気を失くさせる。図を用いて視覚的に内容を示す方が良い。しかし、ただグラフや図を載せるだけでは良くない。見出しや、簡単な説明も必要である。絵を用いて説明することも理解させやすくできるが、過度な装飾や、文章の挿入は逆効果となる。



生徒の感想①

スライド・ポスターの発表技術の1つである、「聴衆に言葉を覚えさせようとしない」というものが印象に残りました。短い言葉は略さずにそのまま使用することや、長い言葉は中身を要約した言葉に置き換えるということは、発表する際に意識すべきポイントだと思いました。また、「すっきりしている」、「拾い読みしやすい」という2つの観点に注意して、スライドを作ることが大切だと思いました。

9月10日に1年生のプレ課題研究発表会があるので、その際に酒井先生の講演で学んだ、スライドの基本形、言葉の置き換え方、文章や表の配置の仕方、スライドの切り方（どこで次のスライドに移すか）などのポイントを意識して助言、指摘をしようと思いました。また、「自分が言いたいこと」を完璧に聴き手にわかってもらえるようなスライド作りをしたいと思いました。

生徒の感想②

文字が多すぎると聴き手が理解しづらく、長い言葉を簡単で分かりやすい言葉に置き換えて使うことが大事だと分かりました。酒井先生のスライドの2種類の同じ情報量でも聴き手に与える印象が全く違うという例を見て、より実感しました。また、酒井先生の「発表する目的は2つあり、1つは理解してもらうため、2つ目は意義を認めてもらうためです。」という言葉がとても印象に残りました。この2つの目的に即しているかどうかを考えながら発表を行いたいと思いました。

今後、課題研究の発表をしていく上で、ポスター・スライドの見やすさということが一番に意識したいと思いました。また、見出しは太く、メリハリをつけることが重要だということがわかったので活用していきたいと思いました。

参加者からの質問→回答の内容

Q. 色づかいについて、組み合わせた方が良い色、逆に組み合わせるべきではない色は何か。

A. 見出しは青色にしている。また、聴衆の色覚についても意識を向けるべき。

Q. 聴衆にアクションを求めることについて、どうお考えか。

A. あくまで注目をひきつける為ならよいが、やりすぎはNG。

Q. 複数のテーマについて、同時進行で研究を進めているが、ポスターではどのようにまとめればよいか。

A. 全体を総括した目的と結論、副次的に取り上げたテーマそれぞれについての目的、小結論を書く。

Q. 発表の中で複数の文学作品のあらすじを理解してもらいたいが、何かいい方法はあるか。

A. それぞれの作品のあらすじを、要旨を捉えて一言で要約する。

編集後記

講演中は静寂な空気に包まれていて、76回生の、内容を隅々まで聞こうとする熱心さを感じました。質問の際には積極的に手を上げる人が多く見られ、自発的に知識を求めて、その知識を自分たちの発表に生かそうとする姿勢も感じました。ポスターを作る際は「自分たちにとってよいもの」ではなく、「聴衆にとって分かりやすい」ポスターを心がけるなど、聴衆に対する配慮が必要です。この発表で学んだことを今後の発表で発揮し、そこで受けた指摘を参考に更にポスターをよいものとしていきたいです。